

自己決定の力を育てる指導の工夫

—連携を基盤とした安心できる環境づくりを通して—

1

本実践に関連する児童生徒の実態

対象 小学生

○課題

- ・生活のリズムが安定せず、就寝時刻が遅い。
- ・授業中寝ていることが多く、勉強に取り組めていない。
- ・交流学級に行きたがらないことが多い。
- ・卒業式、入学式、運動会、発表会など学校行事に参加することが難しい。

○強み

- ・委員会の当番活動は毎週きちんとできている。
(草抜き・水やり・掃除など)
- ・自己決定したことは、守ることができるようになってきた。

2

指導目標・指導仮説

教科等及び単元(題材)名

「みんなと一緒に学習発表会に出よう」

目標(本実践終了時の期待する子供の姿)

学習発表会で交流学級の児童と一緒に劇の発表をすることができるようになる。

指導仮説

安心できる環境をつくり、自分のやるべきことの見通しが持てれば、自己決定し、学習発表会に参加することができるのではないか。

児童生徒の実態

3

指導仮説の具体的な内容と評価内容・方法

◆指導仮説の具体的な内容

- ・生活リズムを安定させ、活動できる体制をつくる。
- ・交流学級に行くことを習慣化するために、交流学級に行くことを前提に一日の日程を自己決定させる。
- ・発表会の流れを把握し、見通しを持たせる。

◆評価方法(どのような方法で何を評価するか)

学習発表会・校内発表会・学習発表会の当日について

- ・参加状況の確認
- ・自己決定することができたか
- ・自己決定したことに向かって行動することができたか
- ・自己決定したことを達成することができたか

4

指導の実際①

心理的な安定のため、保護者と連携し、生活リズムを整える

①保護者との懇談

- ・児童の学校や家庭での実態を共有した。
- ・保護者の困っているところを明確にした。
- ・改善策を一緒に考え、具体化した。

②関係機関との連携

- ・作業療法士の方のカウンセリングを依頼し、具体的なアドバイスを受けた。

5

指導の実際②

交流学級に行けるように、環境を整えた。

- ① 校内委員会をもち、状況を把握してもらった。
- ② 交流学級の児童にしてほしいことなどを話した。
- ③ 「交流学級に行きたい。」と児童が自分の意見を伝えやすいように、今後の見通しを事前に伝え、考える時間を設定し目標を一緒に立てた。
- ④ 一日の日程を自分で決めさせた。
(ゆっくりしたい時間も設定する。)

6

指導の実際③

学習発表会の見通しを持たせる。

介助員が児童の代わりに舞台上に立ち、その動きを児童が教師と一緒に確認する

舞台の下に座って、みんなの様子を見る。自分のセリフは、舞台の下から言う。

交流学級の担任と連携し、セリフは少なく、覚えることができる量にした。

7

指導の実際④

見通しが持てたら、舞台上に立って練習する。

見通しが持てるようになってくると、児童が「みんなと一緒にやってみる」と自己決定した。

前々日の練習では、「本番に出たい」。今日は、本番に向けてエネルギーを貯めたいから、舞台上には上がれない。」と言い、舞台の下からセリフを言った。自己決定したことは、認め、安心して活動できるようにした。

8

実践前後での児童生徒の変容

実践前	実践後
<ul style="list-style-type: none">生活のリズムが整わず、一日の生活に乱れが生じていた。交流学級に行きたがらなかった。前年度の学習発表会では、欠席した。前年度の学習発表会の練習では、なかなか交流学級の児童と演技を一緒にすることができず、舞台の下や舞台のそででセリフを言うことが多かった。	<ul style="list-style-type: none">生活のリズムが段々と整うようになり、少しずつ自信を取り戻し、学習に向かう姿が見られるようになっていく。自分で計画を立て、交流学級の児童と一緒に活動ができている。今年度の学習発表会では、登校することができた。舞台のそでで自分のセリフを大きな声で言うことを自己決定し、行動することができた。そのことで、達成感を感じているような態度を見せていた。

9

評価

- 児童生徒は目標を達成したか。
 - ・概ね達成することができた。
- 判断の理由・根拠
 - ・学習発表会の練習は、自分の決めたことが実行できたので満足した様子だった。
 - ・校内発表会は、舞台上に立って堂々とした発表ができた。

10

指導仮説の検証

●指導の成果

- ・校内発表会や練習などに参加することができ、児童自身も「頑張った。」と自信をつけた。
- ・学習発表会に出るという大きな目標に向かって取組を進めた結果、交流学級に行くことを嫌がらなくなるなど、様々なよい効果を得ることができた。

●課題

- ・自己決定したことを肯定的に評価し、自己肯定感を高めるような声掛けや支援が不十分であった。
- ・自己決定したことが実行できるように、担任が児童や他の教師にもっと積極的に働きかける必要があった。

11

指導の改善案

●成果・課題を踏まえた改善案

- ・「練習に参加する」「舞台の下からでもセリフを言う」「校内発表会に出る」「本番当日学校に来る」「舞台上に立って発表する」などスモールステップで活動を設定する。
- ・参加の仕方を自己決定させ、達成感が持てるようにする。
- ・参加の仕方を本人と相談して予定を立てさせる。
- ・振り返りを充実させることで、児童が達成感を感じられるようにする。
- ・関係機関や保護者との連携も継続して行い、同じ方向で取組ができるようにしていく。

12